

おもしろ企画満載

楽しもなかやままつり

まちづくり下中山地区会議は、来年4月の地域自主組織「楽しもなかやま」設立に向けて活動されています。

12月5日に「認知度UP、楽しも、みんなで！」をテーマに中山温泉館で、映画上映、ヒーローショー、まんがの部屋、健康コーナー、15分の歌

謡ショー、おにぎり・トン汁配布など盛りだくさんの「楽しもなかやままつり」が行われました。

また会場には「第1回SN Y紅白夢合戦」と題し、自分たちの住む町がどうなったら嬉しいか、地域自主組織に期待することなどを自由に書き込むアンケートコーナーも設置しました。



▶トン汁は炊出し訓練を兼ね、水に全ての材料を入れてから作りました

当日は子どもから大人まで、約300人の参加があり、地域自主組織設立に向けた活動を周知することができました。今後、皆さんのご意見を参考に、下中山地区で取り組むべき活動を検討させていただきます。地域皆さんのご協力をお願いいたします。

アンケートでいただいたご意見を一部紹介します。

*住民同士が気軽に交流でき、若い人の発想と住民の協力で前進できる活動を期待します。

(60代女性)
*名前のとおり地域を楽しむことができれば良いですね。

(30代女性)
*自分たちで考え行動し、協力しあう人材の育成を一つの目標に、地域全体が経済的にも生活空間としても潤いのある空気が広がっていくことを期待します。

かあら山で

防災研修会

防災研修会が、11月29日にふれあいの郷かあら山で行われ、地区住民や鳥取大学生など約30人が参加しました。

鳥取大学の浅井秀子准教授を講師に、「HUG体験」を行いました。HUG体験とは、避難所を運営する立場になった時に起きる、様々な事案にどのように対応するかを疑似体験するゲームです。

参加者からは「このような研修会はどんどん行うべき」と



▲災害時を想定して真剣に議論

「若い大学生と一緒に考えて、よい刺激になった」などの感想が聞かれました。

今後も安心・安全なまちづくりを目指し、研修会等を行う予定です。

総合計画審議会から 答申を受けました

「大山町未来づくり10年プラン（総合計画）」の基本構想に対する答申書が、11月25日に大山町総合計画審議会会長の押村克彦氏から森田増範町長へ手渡されました。

押村会長は「大山町を元気にするための基本理念を、『楽しさ自給率の高いまちへ』とした。この答申は、計画の素案を作成した大山未来会議が約1年半の期間を費やしてつくられた素案を基に審議会で議論し、作成したものです。行政におかれては、この理念の実現に向けて住民と一体となって取り組みを進めてください」とコメントされました。

総合計画は今回の答申を受け、議会の議決を経て策定されます。



▲答申書を手渡す押村会長